

SSH 国内研修（関東方面）

本校では最先端の研究を行っている施設等を訪ね、その研究内容について学ぶとともに、自然科学分野における視野を広げる機会とすることを目的として、毎年夏休みに国内の大学や研究所、博物館等を見学する「国内研修」を実施しています。関東方面の研修は、8月3日（月）から4日（火）にかけて実施しました。

1日目は、東京大学に行き、本郷キャンパス内を現役東大生（伊勢高校卒）に案内してもらいました。生徒たちは、大学の敷地の広さ、初めて感じる研究機関の雰囲気刺激を受けたようです。次に東京大学地震研究所を訪問し、古村孝志所長から、地震が起こる仕組みから最新の研究内容まで、三重県の地理的条件も踏まえながら説明していただきました。その後、大学院生お二人の案内で「はざとり標本」、地震計博物館の見学を行いました。最初は緊張した様子の生徒たちでしたが、「色んな事に興味や疑問をぶつけて研究していく事の大切さを教わった」「地震学だけでなく、火山学、地質学、そして建物の耐震工学など、様々な分野の専門家が協力して「減災」という一つの目標に挑んでいる姿がとても格好いいと感じた。」など、本物の研究に触れて、学問の世界への興味が高まったようです。

夜は関東在住の大学生・大学院生（伊勢高校卒）と本校生徒が座談会を行いました。受験勉強のこと、私生活のこと、将来のことなどを質問し、先輩方の生き方から多くのことを学んだようです。卒業生の皆さんからは、「受験という経験は大事だが、勉強が全てではない。いろんなことに興味を持って、コミュニティを広げてほしい」というメッセージをいただきました。

2日目は、モノレール「ゆりかもめ」に乗り、お台場の日本科学未来館に行きました。台風の影響で真夏とは思えない爽やかな気候でした。体験型の展示で最先端の科学を体感したり、研究分野で活躍する方々の想いに触れたりする中で、自身の探究活動のヒントをたくさん掴めたことと思います。

この2日間の研修に参加した生徒の皆さんには、今回の貴重な経験を、自らの進路選択や今後のSSHの活動に最大限に活かして欲しいと思います。

